

東日本大震災 メモリアルシンポジウム

～経験をつなぐ、その意味とその姿～

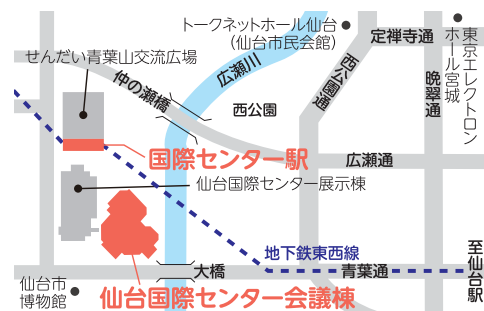
東日本大震災の発生から8年半の月日が経過しました。時間の経過とともに体験者が少なくなる中、世代や時代を超え記憶や経験をつなぐためにどのような取り組みができるのか、仙台市では現在、市中心部における震災メモリアル拠点の設置を検討しています。本セッションでは「東日本大震災が社会に何をもたらしたのか」、「世代を超えて何をつなぐべきか」、「つなぐために必要な取り組みは何か」など、災害の記憶や経験をつなぐ根本的な意味を考えます。

入場無料
事前申込不要
定員1,000名

日時 令和元年**11月10日(日)** 11:00～12:30

会場 仙台国際センター 会議棟 2階大ホール
(仙台市青葉区青葉山無番地)

地下鉄東西線・国際センター駅下車1分
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



プログラム

市長あいさつ



仙台市長
郡 和子

仙台市中心部震災メモリアル拠点の検討状況



東北大学大学院工学研究科 准教授／
中心部震災メモリアル拠点検討委員会副委員長
本江 正茂氏 (もとえ まさしげ)

1966(昭和41)年、富山県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。せんだいスクール・オブ・デザイン校長、仙台市震災復興メモリアル等検討委員会委員、せんだい3.11メモリアル交流館の展示監修等を務める。2019(平成31)年1月、中心部震災メモリアル拠点検討委員会の副委員長に就任。

photo: Izuru Echigoya

パネルディスカッション

モデレーター

多摩美術大学
美術学部情報デザイン学科教授
港 千尋氏
(みなと ちひろ)



1960(昭和35)年、神奈川県生まれ。写真、現代アート、映像人類学にまたがる幅広い分野で制作、研究、発表と国際的な活動を続けている。東日本大震災後7年間にわたる撮影と考察をまとめた著書『風景論—変貌する地球と日本の記憶』で2019年度日本写真家協会賞を受賞。

パネリスト

作家・詩人

池澤 夏樹氏
(いけざわ なつき)



1945(昭和20)年、北海道帯広市生まれ。小説、書評、翻訳など多くの分野で活躍。1987(昭和62)年発表の「スティル・ライフ」で芥川賞を受賞。2011(平成23)年9月に「春を恨んだりはない—震災をめぐって考えたこと」を出版。自然と人間の関係について明晰な思索を重ね、数々の作品を生み続けている。

広島平和記念資料館
前館長
志賀 賢治氏
(しが けんじ)



1952(昭和27)年、広島県広島市生まれ。名古屋大学法学部卒業後、1978(昭和53)年広島市役所に入庁。健康福祉局長、人事委員会事務局長などを歴任し、2013(平成25)年に広島市役所退職。同年4月に広島平和記念資料館館長に就任。施設の運営や展示の全面リニューアルに携わり、2019(平成31)年3月退任。

リアス・アーク美術館
副館長
山内 宏泰氏
(やまうち ひろやす)



1971(昭和46)年、宮城県石巻市生まれ。宮城教育大学卒業。1994(平成6)年よりリアス・アーク美術館に学芸員として勤務。常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」を企画。2019(平成31)年3月に公開された気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の展示監修も務める。